



横浜市立西が岡小学校 泉区西が岡3-12-11 Tel.814-3603
<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nishigaoka/>

「主体的」って何だ？

副校長 熊谷 潤平

2か月後から、日本全国の小学校で新しい学習指導要領が全面実施となります。学習指導要領改訂は、戦後9度目となりますが、今回の改訂でとりわけ注目されている言葉があります。いくつかありますが、その中の一つが、「主体的・対話的」という言葉です。

主体的ー。大人にとっては、それなりによく聞き、使いもする言葉だけれど、実感を持った確たる理解があるかと言われると、いささか心もとなくなってきました。いつものように辞書で調べれば、次のように載っていました。

【主体的】…ある活動や思考などをなす時、その主体となって働きかけるさま。他のものによって導かれるのではなく、自己の純粋な立場において行うさま。(広辞苑)

そうか。他によって無理やりさせられるのではなく、ひたすらに自分の意志で、見て、聴いて、動いて、表現する。これこそが、「主体的」。

我が身を振り返り、小学生時代に、主体的に取り組んだことがあっただろうかと思えます。

休み時間に友達と思う存分遊ぶことは、間違いなく「主体的」だったなあ。昔ならではの「放課後特別クラブ」も主体的に取り組め、楽しかった。

では、授業はどうだろう？学校生活の核であるはずの学習の中で、主体的に取り組めていたときはあったのだろうか。なんだか自信がありません。

いや…、確かにありました。

担任の先生が、知的好奇心を刺激する問いを発してくれたとき。魅力ある教材・学習活動と出会い、そのおもしろさを自ら発見したとき。難しい課題だけど、なんとか解決できないかと全力で考え、試行錯誤し、解決できたとき。そして何より、友達の持ち味や個性に触れながら、共に瞳を輝かせながら学び合えたとき。

西が岡小の子どもたちはどうでしょう。

先日、4、5年生が、気持ちを込めて日々準備を重ね、24日は保護者の方へ、28日は全校児童へ、合奏「エル・クンバンチェロ」をダイナミックに披露しました。笑顔あり、真剣なまなざしあり、見とれ聴きほれながら手拍子する姿あり…。体育館の中は、まさに主体性の響き合いでした。そうだ。学習活動は、こうでなければ。それは何も元気いっぱい「動的」な学習に限ったことではありません。しっとりとした「静的」な学習でも、国語でも、算数でも、どの学習でも、子どもの「夢中」と「主体性」を引き出したいと願います。



「主体的」とは何かー。「それは『瞳輝く西が岡の子』そのものです。」そう答えられるような授業を積み重ねていきたい…。新しい学習指導要領全面実施を前に、そして立春を前に、改めて思います。